



▼ 教皇「世界青年の日」メッセージより ▼

校長 阿南 孝也

カトリック教会のリーダーである教皇フランシスコは、今年4月、世界中の若者に向けて、「世界青年の日」メッセージを発表されました。人生を旅に例えて、「不安や苦しみを伴ったとしても、神のいつくしみに信頼をおいて歩むことによって、偉大なことを体験することができます」と、若者への激励の言葉を述べられました。

アブラハムもモーセも、神からのミッションを受けて、神の導きを信じて、それまでの生活や財産を手放して出発したのです。彼らの旅は、最短距離で目的地に進むものではありませんでした。紆余曲折に満ち、幾多の困難を克服しながら進まなければならない旅でした。しかし苦しい旅を通して信仰が深められ、大きな成長を遂げることができたのです。

私たちの人生にも当てはまることだと思います。どのような試練や苦難に出会っても、負けることなく、むしろそれらを糧として成長できる人でありたいと願います。彼らのように、神の約束を信頼して、喜びのうちに「旅」を続けたいものです。

さらに教皇は「真珠は真珠貝にできた傷から生まれます。イエスはご自分の愛によって私たちの心をいやし、私たちの人生を真の真珠に変えることができます」と述べられました。

「天国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠を一つ

見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う」

マタイによる福音書13章44、45節

この聖句には、従来から2通りの解釈がなされてきました。「商人が私たち、真珠が天国」と、「商人が神様、真珠が私たち」の2通りです。皆さんはどちらの考え方を選びますか？私は後者の解釈に立ちたいと思っています。

阿古屋貝の貝殻と外套膜の間に、何らかの原因で（養殖の場合は人為的に）異物（核）が入り込むと、外套膜の上皮組織が侵入した異物を取り込もうとして、真珠層が形成されます。この層が幾重にも異物を取り囲むことによって真珠がつくられると考えられているのです。美しい真珠は、異物に対する防衛策として生み出されたものなのです。

阿古屋貝が異物の侵入に痛みを感じているかどうかはわかりません。しかし、私たちの人生を貝に例えるならば、痛みや苦しみに直面したとき、周りの人たちが優しく包み込み、支えるとき、素晴らしいもの（美しい真珠）が生まれるのです。そして神様は、すべてを投げ出して（御ひとり子イエス・キリストまでお与えくださって）その真珠をご自分のもとにおいてくださる、そう信じています。

試練は、通り過ぎるのをじっと我慢する、マイナスなものではありません。逆境を体験する中で、順調な時には気づかなかった素晴らしい恵みをいただくことがあるのです。神様は、どのような小さなことからでも、またどのような良くないことからでも、良い物を造り出してください方であることを、洛星で学ぶ子どもたちに伝えたい、心からそう願っています。